

第 108 回 REAAA 評議員会出席報告

黒 田 孝 次*

まえがき

鳥居（推薦評議員）、水橋（YP）と黒田（高速道路調査会代表評議員）の 3 名、そしてオブザーバーとして神谷（REAAA 舗装技術委員会リーダー候補）が、オーストラリア・ブリスベンで開催された第 108 回 REAAA 評議員会（5 月 2 日）、YP 会議（5 月 1 日）に参加した。今回の評議員会は昨年 7 月の第 107 回評議員会（フィリピン・マニラ）、および昨年 11 月の評議員会中間会議（マレーシア・クアランルプール）に次いで開催された。昨年 3 月に開催された第 15 回 REAAA 総会（同時開催：第 105 回、第 106 回 REAAA 評議員会）から数えて 3 回目の会議であり、第 15 期の REAAA 活動を軌道に乗せるために技術委員会などの活動方針を決定するために開催された。

今回の第 108 回 REAAA 評議員会、YP 会議は、第 28 回オーストラリア道路研究委員会（ARRB：Australia Road Research Board）総会、第 8 回 SURF（Symposium on Pavement Surface）と同時に開催され、オーストラリア国内外から多くの参加者が集まった。このような国際的な環境の中で、ARRB 大会の冒頭では REAAA 会長の Momo 氏からキーンオトス

ピーチとして REAAA の活動が紹介され、また展示会場には REAAA のブースも設置し REAAA の広報活動も行われた。

ここでは、第 108 回評議員会の概要、鳥居氏による REAAA 技術委員会、さらに水橋氏による YP 会議と分けて報告する。

1. 第 108 回評議員会（5 月 2 日開催）の概要報告

(1) 会長挨拶および評議員会の成立

インドネシア道路開発協会（Indonesia Road Development Association, IRDA）長であり、REAAA 評議員でもあった Hedyanto 氏がこの評議員会の直前に急逝したことは REAAA にとって大きな損失であり、謹んで哀悼を申し上げる。この評議員会の開催に ARRB の大き



REAAA ブース

* REAAA 評議員

な支援をいただいたことに感謝し、ARRB, SURF とのより良い関係の構築に良い機会をいただいたことに感謝したい。REAAA 活動方針の確立に向けて成果のある議論を期待する。ここブリスベンでの評議員会を充実したものにするため皆さんの闊達な議論を期待したい。

(2)議事録確認

次いで第 107 回評議員会の会議録の確認が行われた。このマニラで開催された評議員会には多くの評議員の参加があった他、フィリピン、インドネシアからのオブザーバー参加が多くあり、にぎやかな雰囲気の中で開催された評議員会であった。議論の中心は財務と新しく設けられる技術委員会についてであり、財務関連では各国の自主的な会費徴収、技術委員会関連では技術委員会の構成、および世界道路会議との連携について議論された。第 107 回評議員会の議事録は異議なく承認された。

(3)財務報告

今回の財務報告は 2017 年 1 月～12 月末日までの 2017 年度の財務諸表について行われたもので、この 2 年間で集中的に議論されてきた会費未納、幽霊会員に対する対策の一定の効果が発現したことが報告された。

2017 年の 1 年間では会費収入に改善がみられた。RM199,250 の会費納入の請求に対して、74%にあたる RM147,483 が納入された (26%の RM51,768 が未納)。

このこともあり、年間収入は予算の約 30%増しの RM371,475 となり、REAAA の財務状況は赤字から RM29,906 の黒字に転じた (ここで RM はマレーシア・リングットで 6/12 時点の 1 RM は 27.7 円)。

前回の評議員会では財政長から会費の納入に努力したフィリピンへの感謝の意が表明され、反対にこの課題に未着手のチャプター、各国の道路協会に会費の納入について協力要請が出された。特に、未納額の大きいマレーシア、オーストラリア、インドネシアに会員個人に直接、会費納入を働きかけ、会費納入の促進を図るよう要請があった。3 カ月以内と期限を切った催促であったことから、早速 2017 年度決算に効果が現れた。財務長から 12 カ国 (日本も含む) のメン

バー国に対して会費納入の努力に対して感謝の意が表明された。

(4)事務局長レポート

昨年 7 月～今年 3 月までの 9 カ月間の REAAA 活動について事務局長 (Zulakmal 氏：マレーシア) から報告があった。

①第 107 回評議員会で決定された REAAA 副会長を 3 名から 4 名に、推薦評議員を 10 名から 15 名に増員するために必要な REAAA 憲章の改正のための会員の投票が無事終了。

②ベトナム・ハノイで 2018 年 11 月に開催される、世界道路会議 (PIARC) 災害マネジメントセミナーへの REAAA として参画するため、PIARC 同委員会への委員長である田村氏との連絡調整。

③昨年 11 月の中間評議員会のマレーシア・クアラルンプールでの開催。

④ REAAA 会長からベトナム道路総局 (DRVN) へのベトナム・ハノイでの第 109 回 REAAA 評議員会開催のための協力要請書の発出。

⑤第 108 回 REAAA 評議員会開催のためのシャープ氏 (オーストラリアチャプター) との連携。

⑥ REAAA 技術委員会技術レポート TC-8 とニュースレターの広告の募集活動。

その他の項目として、2017 年 11 月にはニュースレターが、また上記の技術レポート TC-8 が同じく昨年 11 月に会員に配布され、さらに技術レポート TC-9 は今年 3 月に発刊されたことが報告された。

また、今後の評議員会の予定については、第 109 回評議員会を 2018 年 11 月 6～7 日にベトナム・ハノイでの開催を計画し、またこの機会に PIARC との災害マネジメントセミナーと共同開催についても計画していること、次々回の第 110 回評議員会は台湾道路協会から 2019 年 3 月～4 月開催の申し出があった。さらに第 111 回評議員会には PIARC とのジョイントセミナーを計画しているアブダビ (UAE) において、UAE のインフラ開発省、PIARC と協議を開始する、との報告があった。

(5)技術委員会

技術委員会の報告は鳥居氏が別掲で行う。技術委員会を構成するサブコミッティーには1. Pavement Technology Committee (舗装技術委員会), 2. Climate Change, Resilience and Emergency Management Committee (気象変動, レジリエンスおよび緊急対応委員会), および3. Road Safety Committee (道路安全委員会) の3つのサブコミッティーの設立が提案され, 1. は日本がイニシアティブをとり, 2. はオーストラリアが, そして, 3. についてはマレーシアが期待されている。この評議員会を契機として, 委員会の組成(メンバー) および役割(TOR) が決められることになる。

(6)新しいファンド(Hwang Fund)の設立

韓国代表の現推薦評議員で, 名誉会員である Mr. Kwang-Ung Hwang から申し出があり, 韓国チャプターをとおして新しいファンドが提案され, 前回の評議員会でその設立が承認された。日本の会長経験者である2名の寄付金からなる片平ファンド, 三野ファンドに次いで3つ目のファンドとなる。Hwang 氏から10万USドル(約1,100万円)の寄付によるもので, Hwang 賞は4年ごとに開催予定の REAAA 総会に合わせて REAAA に貢献のあった個人(1人)に1万USドル(約110万円)が授与される計画である。今後の授賞者選定の基準, ノミネーション手順などは, Hwang ファンド委員会により示される。その委員会構成は韓国チャプターから委員長, 副委員長には REAAA 事務局長, REAAA 各チャプターから5名, 日本から1名の合計9名の委員からなる。日本からは



全体写真

筆者がその委員を務めることになった。

(7)その他

次回の第109回評議員会開催について, 会議ではベトナム・ハノイでの開催が提案され, ベトナム道路総局との調整が整えつつあるとの認識であったが, この評議員会の開催は困難な状況になった。マレーシアからは第109回評議員会はクアラルンプールに移し, 今年10月末のマレーシア道路技術者協会(REAM)の総会に併せて開催する案が提案されている。メンバー国でない国で評議員会を開催することは費用負担の問題, 事務局の活動の制約の問題, ビジネス・フォーラム開催の難しさがあり, 今回は調整が不可能との判断が事務局から出されている。一方, 第110回評議員会の開催には台湾が積極的に申し出をして, 評議員を喜ばせた。

あとがき

今回のブリスベンでの評議員会は ARRB の総会と併せて開催されたことから5月の連休と重なった。またマレーシアでは, 大統領を選ぶことになる国政選挙(5月9日)の直前であったことから, 公務員である評議員の多くが欠席した。インドネシアは, 評議員でもあるインドネシア道路開発協会会長が評議員会の直前に急逝したことから派遣も含めて調整が遅れたようである。このようなことから人数的にはやや寂しい評議員会になった感は拭えないが, 日本, 韓国, フィリピン, 台湾が存在感を増した評議員会になったのではないかと。技術委員会でイニシアティブを執り, 日本の進んだ技術を REAAA 諸国に紹介することが, われわれの重要な仕事である。この目的に沿って, 実質的な存在感を維持することが大切である。日本が持つ優れた技術を, REAAA 諸国のさまざまな技術的課題の解決に適用するためには, 官民を問わない道路技術者の REAAA での活躍, 各国とのネットワーク形成が望まれる。そのためには皆さまの REAAA 活動へのさらなるご理解とご支援を期待したい。

REAAA 技術委員会・舗装技術委員会報告

鳥 居 康 政*

1. 前回報告以降の動きと課題

(1)経緯

前評議員会（2017年7月開催，本誌報告同年11月号）以降，Sharp REAAA 技術委員会（TC）委員長主導で①舗装，②インフラストラクチャ・レジリエンス，③安全の3つに絞った小委員会（SC，Sub-Committee）設置の準備が進められた。本来，REAAA の技術的課題に取り組む委員会は会員各国の合意に基づき設立すれば済む話である。しかしながら REAAA は WRA/PIARC の本地域のパートナーとして位置づけられており，今次 Sharp 委員長は PIARC 事務局との間で協調候補 TC の運営規約（TOR，Terms of Reference）作成段階から協議を始めた。うち①，②については REAAA 側で SC を置く国（①日本，②オーストラリア）とリーダー（①神谷恵三氏（NEXCO 総研），②Caroline Evans 女史（ARRB））が決まったことから，本年1月末に REAAA，PIARC 双方の関係者によるウェブ会議まで行われた。

(2)持ち越した課題

前回報告のとおり PIARC 側には他の関係機関との間で組織的・継続的な共同作業を進める場合の要件がある。その1つは PIARC の TC に相当する組織（mirror group）を設立し，そのリーダーは年2回開催される PIARC の TC に出席することである。一般的には従来の REAAA 活動実績から判断すると実現可能性が危惧される項目であるが，前述の2人のリーダーは幸い PIARC の該当する TC 委員を務めていることからクリアできた項目である。①，②の SC についての協議は先ず TOR の合意を得るべく交信が重ねられた。結果は残念ながら本評議員会開催前までに合意に至らず，また REAAA 内部でも会員各国からの委員指名が完了しないまま下記2.(4)のような報告がなされる

こととなった。

(3)舗装技術委員会の動き

わが国が引き続き SC を設置しリーダーを務めることになった舗装技術委員会（PTC，Pavement Technology Committee）では他の2つの SC に先行して会員各国の TC 委員に TOR 案の照会および委員指名要請が行われた。SC 設置国であるわが国に与えられた4名枠の委員を初め複数の指名登録が整ったことと，今期に PIARC の舗装委員会 D.2 との共同イベントが本機会を除いて実現できないことから，SC 内で両舗装委員会共同会議の開催計画を取りまとめた。内容は REAAA 側が今期の D.2 のトピックスに関連する調査結果を紹介することを骨子とするものであり，D.2 Han 委員長（韓国）の全面的な支援を得た。しかしながら，時間的制約から REAAA，PIARC 両者と現地組織委員会の合意形成，日程調整まで至らず，関係者への会議案内送付はできなかった。ちなみに REAAA 内では PTC の会議という位置づけで評議員会プログラムに記載された。また PTC の実質的な活動が SC を中心に可能となったことから，この間にその運営を Sharp 委員長から神谷リーダーに委譲してもらっている。

2. TC 委員長報告

(1)TC 委員名簿

TC 委員について新たに PTC リーダーとなった神谷恵三氏を含む15名の名簿が示された。わが国からは橋場克司 副会長と合わせ3名が参加することになった。

(2)委員会活動

① REAAA 機関誌 “Journal”

原論文に対する Sharp 氏の審査，著者回答に時間を要し，当初予定より半年遅れとなったが，“Journal”の最終原稿が事務局に送付されたことが報告された。掲載される論文は9編，うち6編は第15回 REAAA

* REAAA 技術委員会委員 / PTC アドバイザー（世紀東急工業(株)常任顧問）

道路会議での片平賞受賞論文であり、残る3編（前回報告では2編）は最終審査対象資格を満たしていたものの会議組織委員会の不手際から見逃された論文である。また“Journal”は従来どおり製本発行を目指すべく広告主の募集が提案された。ただし、発刊時期が確定できないことから、先ずREAAAのウェブサイトに載せることも提案された。なお、わが国からは既に3社が参加の意思を示していることを本報告者から補足し、他の会員各国の協力を求めた。

次の“Journal”発行については報告時点で手持ち論文がなく、TCの課題としている。本件は一時期、会員各国に各1編の論文提出を求めたことが議事録にも残っており、わが国は既に登録を済ませている。TCでの議論を見ながら国内のPTC SCでも対応を検討したいと考えている。

②テクニカル・レポート / コンペンディウム

本項目では以下の2編について報告があった。

“Technical Report TC 9-Compendium on Recycling of Pavement Materials”

本編は会議直前に製本刊行・会員配布がなされたものであり、旧REAAA TC-2の最後の成果品である。当日の口頭発表では触れられなかったが、配布資料にはテーマ選定の経緯と調査結果の概要が記述されている。

“Technical Report TC-10-Report on FEHRL Scanning Tour to South Korea and Japan : Infrastructure Resilience”

本レポートは2016年11-12月に実施されたFEHRL (Forum of European Highway Research Laboratories)の調査結果をまとめたもので、前回報告では前述の“Journal”に掲載する計画であったが、単独のテクニカル・レポートとしてウェブサイトに載せる案が示された。調査に参加された前述のEvans女史もSharp氏とともに編集に係わっている。

(3)道路交通統計

新たな数値は示されなかったが、変更・更新については適宜事務局に報告するように求められた。

(4)技術小委員会

ここでは以下の3委員会についてPIARCとの協議進展状況とともに現状が報告された。

①舗装 (PTC)

1. で記したようにPIARCとの協議は決着がつか

ない状況であったが、PTC SCが実質的な活動を開始したことから実態に合わせた報告がなされた。すなわち、PIARC D.2のトピックスとの関連ではPTCも建設・維持の段階で環境への影響・エネルギー消費を低減させる技術や材料に関心を持つことを明示し、そのTORを本評議員会終了後に開催予定としたPTCの会議で議論するという内容であった。加えてPTC委員指名未了の会員各国に改めて指名要請が行われた。

②インフラストラクチュア・レジリエンス (CCREMC)

本SCは「気候変動、レジリエンスおよび緊急事態管理委員会」(CCREMC, Climate Change, Resilience and Emergency Management Committee)と非常に長い名称が付されることになった。PIARC TCとの関連ではストラテジック・テーマE (Climate Change, Environment and Disaster)に属する2つのTC E.1 (Adaptation Strategies to Increase Resiliency)とE.3 (Disaster Management)をカウンターパートと想定している。前者ではEvans女史が小委員会のリーダーを、後者は田村敬一氏((一財)橋梁調査会)が委員長を務めており、REAAA, PIARC間の意思疎通が図れる前提である。現況はPTCに準じたTOR(案)をPIARCに送信する段階とのことであり、協議が整った段階でREAAA TC委員に意見照会とCCREMC委員指名要請を行うとのことであった。

③交通安全 (RSC)

道路交通安全は会員各国共通の関心テーマであり、それを扱う委員会(RSC, Road Safety Committee)の設立も急がれるが、PIARCとの協議はTPC, CCREMCに次いで3番手となっている。またSCを担当する国と責任者も未定である。

3. PTC キックオフ・ミーティング

2018年5月1日16:00よりPTCの会議が開催された。出席者はSharp TC委員長、神谷PTCリーダーなど12名(オブザーバーは除く)、REAAAとPIARC両者の合同舗装委員会という形は取れなかったがHan D.2委員長、わが国からはPTC委員として登録した平川一成氏(大成ロテック)も参加された。参加国はオーストラリア、ブルネイ、マレーシア、韓国、日本、フィリピンおよび台湾の7カ国、REAAA会員国11の過半の関係者が出席したことになる。議事の内容はSharp委員長と神谷リーダーの準備した資料をもとに主としてTOR、就中PTCで扱うべき

課題について意見交換が行われた。PIARC D.2のトピックスを意識しながら進めてきた旧 REAAA TC-2の流れを踏襲することが確認できた他に新たに舗装の設計が候補テーマとして挙げられ、大方の合意が得られた。

以上のような結果は、5月初旬に神谷リーダーから出席者および REAAA TC 委員宛てに報告、意見照会が行われた。併せて登録未了の国の TC 委員には速やかな PTC 委員を依頼している。次回以降、具体的な PTC の活動報告が期待される。

REAAA 第 13 回若手技術者会議出席報告

水 橋 光 希*

はじめに

REAAA 第 108 回評議員会の開催にあわせて、第 13 回若手技術者 (Young Engineers Professional: 以下、「YEP」) 会議がオーストラリアのブリスベンにて 2018 年 5 月 1 日に開催された。YEP 会議は各国の若手の道路技術者の交流を目的として開催され、2012 年 4 月の第 1 回会議以降、評議員会議に合わせて年 2 回程度開催されている。

第 13 回 YEP 会議の概要

各国からの参加者は、日本 1 名、インドネシア 1 名、マレーシア 2 名、フィリピン 3 名、韓国 1 名、台湾 2 名、オーストラリア 1 名の合計 7 カ国 11 名で会議を行った。初回の YEP 会議から毎回参加している者もいれば、私のように今回が初参加の者もいた。

本会議は「各国 YEP の活動報告」、「各国からのテクニカルプレゼンテーション」、「交流会」で構成されており、順を追って紹介する。



YEP メンバー

各国 YEP の活動報告では、各国が YEP 会議を盛り上げるために日頃国内で取組んでいる活動内容が発表された。特に熱心に活動しているのがフィリピン代表であった。現地組織が大きく、地方ごとや国全体など、さまざまな単位で若手技術者の技術力向上のための研究会や交流会を実施している。

テクニカルプレゼンテーションでは今回は日本を含めて 3 カ国から発表があった。まずはオーストラリア代表による、IT やソーラー発電技術等を活用した Intelligent Roads の事例研究についての発表である。オーストラリア道路協会職員として欧米各国の先進技術の導入状況や、当該技術のオーストラリアへの適用可能性について述べられていた。次に、筆者が東京外かく環状道路の建設プロジェクトの紹介ということで、構造的な特徴、トンネルの耐火性や、環境保全の取組み等について発表をした。各国技術者からは関心を得ることができ、トンネルの構造や、使用材料等についての質問を受けた。韓国代表は、技術者の教育についての韓国道路協会の取組みについて発表を行った。

交流会では各国参加者と立ち話で自由に意見交換を行った。YEP メンバーが少人数であったこともあり、国家公務員、地方公務員、民間建設コンサルタント社員、研究者など多岐にわたっている各国の参加者と個別に交流を図る機会を得られた。

道路事業の運営は、事業の性質上国内を中心に業務を行う者が多く、経験の浅い私のような若手には海外の技術者と情報交換をするのは非常に貴重な経験となった。また諸外国の技術者と交流し、つながりを持ち情報交換をし続けることは、今後の日本の道路事業の発展に寄与するものと思われることから、今後も積極的に本会議に参加し続けたいと思う。

* 中日本高速道路(株)東京支社保全・サービス事業部企画統括チーム